



“恋人同士の愛、家族の愛、 誰かを憎む事も愛 人生の6時間半を僕らに頂けたら”

「インヘリタンス-継承-」特別インタビュー《前篇》

福士 誠治

SEIJI FUKUSHI

2018年にロンドンで初演。オリヴィエ賞4部門、トニー賞4部門受賞と世界を感動に包んだ話題作が、北九州市出身であり今演劇界で最も注目される演出家の1人、熊林弘高の演出で日本初演! 現代NYのゲイコミュニティを舞台に綴る、前後篇6時間半のラブ・ストーリーという大作に挑む主演の福士誠治さんにお話を伺いました。

— 今回熊林さんからのオファーを受け、台本を読む前に出演を決められたそうですね。

熊林さんとは今回3度目ですが、また一緒にものづくりをしたい、という思いがずっとあって。好きな方と繰り返しのづくりが出来るのはやっぱり楽しいですね。共通言語やお互いの感覚がわかって来うえで更に違う作品にチャレンジ出来る事はとても光栄ですし、楽しみでもあります。

— 熊林さんの演出の魅力は、こういったところだと思われませんか？

表現にとっても繊細で、言葉を大事にする事、そして肉体をもって表現する事、という点が特化していると思います。言葉の意味の裏にあるストーリーのサブテキストというか、そこをすごく深く読み込んでいくので、いつも稽古でお話を聞きながら「あー、そうか」と思ったり、雰囲気や流さない、台本の核みたいなところをしっかり捉えていく感覚が、素晴らしいです。

— 製作発表では本作を「愛の物語」とお話しされていましたが、稽古を始めていかがですか？

愛ってとても大きい言葉ではあって、恋人同士の愛、家族の愛、もっと言うとか誰かを憎んでしまう事も愛のひとつだし、色々な種類の愛に溢れている作品だなと、稽古をしても思います。台詞にもあるのですが、リアルな人間というのは醜い部分がある、とか、必ずしも綺麗なだけでは表現されていない台本なので、人間臭い作品だなとも思います。

お話の構成として「インヘリタンス」という小説を作り上げる、という構成にもなっていてそこ面白いですね。本当にあったリアルな話であり、本の中身を作り上げる、という時間にもなっている。本を作り上げる事への生きる喜び、或いは本を作る事で死に近づいてしまったり。愛する事で幸せになる人もいれば、愛する故に不幸を味わってしまう人もいます。必ずしも愛イコールとてもいいもの、となっていないところが残酷でもあり、リアルだなと思います。

— 6時間半という大作で、稽古も2か月以上あると聞いています。

初めて聞いたらみんな長いと思うだろうし、1冊台詞を覚えた後に、もう1冊あった時の絶望感がありました(笑)。

でも今本当に全員で、どんな表現が出来るかとお互いに刺激し合って、1つ1つの台詞が生きた言葉、伝える言葉になるという階段を上がっている

ので、もっともっと楽しくなる予感がしています。

HIVやLGBTQなども背景にあってこの作品をやる大義、みたいな事もよく問われますが、観てくださる方には、社会的な作品だとか、難しい話だ、みたいな気持ちではなくていいような気がします。そういった事であればセミナーなどの方がいいのかもしれないし、何かを伝えるエネルギーや心を動かすという点で、やっぱり舞台にはひとつの娯楽要素があると思うので、とにかく楽しんで観ていただきたいですね。

開演して1時間ちょっとしたら休憩があって、また2時間位見たら前篇が終わって、前篇と後篇の間にはご飯を食べて…と思うとそんなに長く感じないと思うので(笑)。人生の中の6時間半を僕らに頂戴して、そこで何か、心を動かしていただけたら嬉しいです。

☆インタビュー後篇は後日ホームページにて公開!

Information

「インヘリタンス-継承-」

3月9日(土) 13:00開演(前篇) / 18:00開演(後篇)

J:COM北九州芸術劇場 中劇場

[作] マシュー・ロベス

[演出] 熊林弘高

[出演] 福士誠治、田中俊介、新原泰佑、榎木玲弥
百瀬 朔、野村祐希、佐藤峻輔、久具巨林
山本直寛、山森大輔、岩瀬 亮 / 篠井英介
/ 山路和弘 / 麻実れい(後篇のみ)

公演情報は
こちら



チケット購入は
こちら



※R-15指定作品
※前後篇セットチケットのほか
シングルチケットもあり

